

## 令和 2 年度社会福祉法人懇談会の実施概要

## 1 目 的

社会福祉法人は、社会福祉事業の主たる担い手として税制上の優遇を受ける公益性の高い法人であり、地域社会に積極的に貢献していくことが求められており、また、社会福祉事業及び社会福祉法第 26 条第 1 項に規定する公益事業を行うに当たっては、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者に対して、無料又は低額な料金で、福祉サービスを積極的に提供するよう努めなければならない「地域における公益的な取組」を行う責務がある。加えて、地域の福祉課題の解決に向けて、社会福祉法人が共同して取り組んでいくことがますます重要となっていることから、社会福祉法人間相互の連携を推進することを目的に開催したもの。

2 日 時 令和 2 年 10 月 23 日（金） 13：30～15：30

3 場 所 一関市産業教養文化体育施設（アイドーム）

4 出席者 21 法人

## 5 次 第

- (1) 説 明 次期一関市地域福祉計画及び一関市地域福祉活動計画について
- (2) 講 演 「社会福祉法人が行う公益的な取組について」  
講師 岩手県社会福祉法人経営者協議会 会長 熊谷 茂 氏
- (3) 情報提供 「I W A T E・あんしんサポート事業について」  
社会福祉法人岩手県社会福祉協議会
- (4) 懇 談 社会福祉法人が行う地域における公益的な取組について

## 6 懇談での発言など

- 高齢者の通院支援を考えている。情報提供をいただき参考としたい。
- できることを探しながら進めていきたい。懇談会などで情報提供いただければありがたい。
- 地域に支えられて運営している法人である。
- N P O 法人と提携して子育て支援を行ってきた。具体的には長期休業中の子どもを預かっている。無理のない範囲で続けている。
- 人材不足の中ぎりぎり運営しているので、他の分野まで手が出せないのが現状。法人がそれぞれ専門化するのはしかたないが、地域貢献事業で大きな役割を果たすのは社会福祉協議会ではないか。社会福祉協議会がコーディネーター役を担っていただければ、地域貢献が進むのではないか。

- 利用者が一住民として地域づくりに参加している。
- I W A T E あんしんサポート事業に参画しているが、なかなか案件が回ってこない。
- 園児が高齢者施設を訪問し交流している。子どもたちを通して関わり、子どもたちが学ぶ機会となっている。
- 生活に困っている人を支援したいが、具体的な進め方がわからない。
- 地域とむかし遊びで交流している。
- 取組があまりできていなので、本日のお話を参考にして進めていきたい。
- 地域交流活動や学生実習の受け入れを行っている。そのほか、保護者などを巻き込んでボランティアグループを立ち上げている。
- 保育園の敷地を地域の集会所の駐車場として貸している。今後は、行政区長、民生委員などから話を聞きながら、ハードルを低くして、できることから進めていきたい。今後も皆さんで勉強できればと思う。
- 日常の保育の中で子どもたちを通して地域と関わっていることを感じている。地域の方々が子どもたちを喜んで迎えてくれている。また、学生を受け入れることで大学や専門学校とのつながりができている。
- 卒園生、保護者、元職員が周りに多くいるので、うまくつながると力を発揮できるのではないかと感じている。

## 7 懇談会のまとめ

- 社会福祉法人の皆さんと分野を超えて初めて懇談会を開催した。
- 多くの法人が、I W A T E あんしんサポート事業や福祉避難所としての協力など様々な公益的な取組を行っている印象を受けた。
- ただし、法人が行っている取組が、地域に向けて情報発信されていないのが残念だった。
- 今後、「情報発信」や「地域課題などの情報を共有できる取組」を市、社会福祉協議会、社会福祉法人で進めていきたい。また、社会福祉法人の理事や実務者で、課題の具体的な展開について話し合いの場を設けていきたい。